

平成30年1月16日

南の風ウインターカップ特集号Ⅳ

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

勝負事ですから、結果として負けてしまうのは仕方ないことです。しかし、ベンチが「当たれ、当たれ！」と連呼しているのに反応できなかつたり、逆転した直後のオフェンスの徹底がなかつたりしたのは残念でした。練習ではきちんとできていると思うのですが。4Qの攻防を見ると、やりようによっては八雲学園が勝てたゲームだったかもしれません……

但し八雲学園は2年生、1年生が主体のチームです。来年の巻き返しに期待したいと思います。

最後に女子の3位決定戦について書きます。

八雲学園VS桜花学園のゲームです。このゲームは50対83で、ぶっちぎりで桜花学園が勝つのですが、4番キャプテンの山本 麻衣選手に注目しました。彼女は藤浪中学校（愛知）時代、中2で全国制覇を経験し、中3では全国2位の成績を残しました。桜花学園では昨年度、高校3冠（高校総体、国体ウインターカップ）を達成しました。今年も期待が掛かりましたが、岐阜女子に高校総体、国体（どちらも決勝）で敗れ無冠のままウインターカップを迎えました。そして準決勝で大阪桐蔭のゾーンを攻めあぐみ、79対54で敗れ去りました。山本選手はキャプテンとして、今年は無冠で終わりました。

さて彼女のプレイについてです。U-17の日本代表選手（ガード）としても活躍しましたが、運動能力、身体能力は卓越したものがあります。サイズは163cmと小柄なのですが、体幹がしっかりしていてコンタクトにも強い選手です。1年生の頃から桜花学園でガードとして出ていました。2年生でスタメンに定着しチームの要として活躍しました。9+1+B+Gのビジョンが抜群でコートを常に支配できる選手です。

まずパスです。『パス』というのはツーウェイのプレイです。パッサーとレシーバーの呼吸が合わなければ成立しません。ゲーム中、山本選手を注視するとボールを受ける前に9+1+B+Gを確認しているのです。ボールを受けてから「さあ、どうしよう」というのがほとんどありません。さらにパスの出所を瞬時に変えてパスを出しています。一方レシーバーは山本選手が自分を見ていなくても、常にパスが来ることを予測してカットしたり、ミートしたりしていました。練習の賜物と言えます。

次にシュートです。3位決定戦ではドリブルストップジャンプショットとドライブイン選択が際立っていました。決して「自分で決めてやる」という思いだけでプレイするのではなく、コートを把握した上で判断している様子が窺えました。ドリブルストップジャンプショットではストップからジャンプしてボールセットまで、なにかストップ画像を見ているようでした。女子でこのようなシュートを打てる選手はあまり見たことがありません。ドライブインでは、ディフェンスの切り裂き方が素晴らしく、特にしっかり踏み込んでからショットに向かうやり方は、基本中の基本でミニバスや中学生の選手にはぜひとも参考にしてほしいプレイでした。

ディフェンスでは、ボールマンディフェンスの際の『一歩目の反応の速さ』が目を引きました。よく『読み・予測』が大切と言われるかもしれませんがお手本のフットワークでした。

勝って3位が決まった瞬間、彼女は泣いていました。うれし涙ではありません。そして桜花学園のスタメン中で、彼女だけ一度もベンチに下がらず交代しませんでした。『彼女の意地』を見ました。